

令和4年度

北方町下水道事業特別会計

歳入歳出決算審査意見書

北方町監査委員

北 監 第 24 号
令和 5 年 7 月 20 日

北方町長 戸部 哲哉 様

北方町監査委員 横 山 治

北方町監査委員 井 野 勝 巳

令和 4 年度北方町下水道事業特別会計
歳入歳出決算審査意見について

地方自治法第 233 条第 2 項規定により審査に付された令和 4 年度
北方町下水道事業特別会計歳入歳出決算について審査した結果、次
のとおり意見を付します。

令和4年度北方町下水道事業特別会計歳入歳出決算審査意見書

第1 審査の概要

- 1 審査の対象 令和4年度北方町下水道事業特別会計
- 2 審査の機関 令和5年6月28日
- 3 審査の手続

各決算及び各基金運用状況の審査に当たっては、地方自治法第233条第2項の規定により町長から提出された決算関係書類等の正確性を検証するため、会計帳簿・証書類との確認・照合並びに関係職員の説明に基づき実施した。また、例月出納検査及び定期監査等の結果も参考として審査した。

第2 審査の結果

令和4年度北方町下水道事業特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書及び実質収支に関する調書並びに財産に関する調書と関係書類とを照合審査した結果、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確で適正なものと認められた。

第3 決算の概要

令和4年度本会計における決算額は、歳入総額745,914,872円（前年度925,726,029円）、歳出総額662,697,723円（同875,288,068円）で、歳入歳出差引額は、83,217,149円（同50,437,961円）となっており、この全額が翌年度に繰り越されている。

歳入決算額は対前年度比179,811,157円（△19.4%）減となっている。款別に前年度と比較して見ると、分担金及び負担金が38,147,970円（402.5%）増、諸収入が31,401,176円（2,031,123.9%）増となっているが、国庫支出金が100,300,000円（△91.6%）減、町債が65,400,000円（△85.5%）減、繰入金が34,345,000円（△8.9%）減、使用料及び手数料が30,293,086円（△10.9%）減となっている。各項目の主な変動要因としては、令和3年度にはなく令和4年度に実施した減免事業に対する一般会計からの補助金のため諸収入が増加し、使用料及び手数料が減少した。また、令和3年度はふれあい水センター長寿命化等工事に係る事業費があったことにより、国庫支出金及び町債が増加となったが、令和4年度はその分が大幅に減少している。ま

た、収入済額が予算額に比べて少なくなっているのは、令和5年度への繰り越し事業へ充当する国庫補助金及び下水道事業債が未収となっているためである。

一方、歳出決算額は対前年度比 212,590,345 円（△24.3%）減となっている。その主な要因は、下水道費が 214,556,100 円（△90.1%）減となったためである。令和3年度に行った事業にふれあい水センター長寿命化工事があったため大きな費用がかかったが、令和4年度は大きい事業がなかったため、大きく減額されている。

支出済額も予算額に比べて約8千8百万円残っているが、公営企業会計移行に伴う打ち切り決算未払い分と令和5年度に繰り越す工事費があることによるものである。

下水道事業は、水洗化人口は 16,169 人で前年度に比べ 182 人(1.1%)増、水洗化率 86.8%（前年度 86.3%）と上昇している。また、財政計画に基づき借入金 356,690,065 円を返済して借入金残高も着実に減少してきている。

収納状況等については、現年度分使用料の収納率は 96.7%（前年度 98.6%）と前年度より下がっている。過年度分については 24.5%（前年度 23.9%）と前年度と比較して 0.6 ポイント上がっている。また、現年度分受益者負担金の収納率は 98.7%となっている。

別表

○款別歳入決算状況

(単位：円・%)

区 分	令 和 4 年 度		令 和 3 年 度		前 年 度 比	
	決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
分担金及び負担金	47,625,960	6.4	9,477,990	1.0	38,147,970	402.5
使用料及び手数料	246,443,229	33.0	276,736,315	29.9	△ 30,293,086	△ 10.9
国庫支出金	9,250,000	1.2	109,550,000	11.8	△ 100,300,000	△ 91.6
繰入金	349,655,000	46.9	384,000,000	41.5	△ 34,345,000	△ 8.9
繰越金	50,437,961	6.8	69,460,178	7.5	△ 19,022,217	△ 27.4
諸収入	31,402,722	4.2	1,546	0.0	31,401,176	2,031,123.9
町債	11,100,000	1.5	76,500,000	8.3	△ 65,400,000	△ 85.5
歳入合計	745,914,872	100.0	925,726,029	100.0	△ 179,811,157	△ 19.4

※各構成比は、端数処理の都合上合計が100.0にならない場合がある。

○款別歳出決算状況

(単位：円・%)

区 分	令 和 4 年 度		令 和 3 年 度		前 年 度 比	
	決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
総務費	238,077,906	35.9	227,659,480	26.0	10,418,426	4.6
下水道費	23,678,600	3.6	238,234,700	27.2	△ 214,556,100	△ 90.1
公債費	400,941,217	60.5	409,393,888	46.8	△ 8,452,671	△ 2.1
予備費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歳出合計	662,697,723	100.0	875,288,068	100.0	△ 212,590,345	△ 24.3

※各構成比は、端数処理の都合上合計が100.0にならない場合がある。

○過去5年間の決算状況

(単位：円・%)

区 分	歳 入		歳 出		歳入歳出差引額	
	決 算 額	増 減 率	決 算 額	増 減 率	決 算 額	増 減 率
平成30年度	748,099,333	1.2	702,140,685	1.6	45,958,648	△ 3.5
令和元年度	753,579,471	0.7	718,135,579	2.3	35,443,892	△ 22.9
令和2年度	733,191,252	△ 2.7	663,731,074	△ 7.6	69,460,178	96.0
令和3年度	925,726,029	26.3	875,288,068	31.9	50,437,961	△ 27.4
令和4年度	745,914,872	△ 19.4	662,697,723	△ 24.3	83,217,149	65.0

○過去5年間の公債借入・償還状況

(単位：円)

区 分	借 入 額	償 還 額			年 度 末 残 高
		元 金	利 子	計	
平成30年度	17,700,000	321,656,563	80,192,091	401,848,654	3,123,540,021
令和元年度	26,700,000	331,220,161	71,560,726	402,780,887	2,819,019,860
令和2年度	3,400,000	344,977,557	62,677,696	407,655,253	2,477,442,303
令和3年度	76,500,000	356,023,870	53,370,018	409,393,888	2,197,918,433
令和4年度	11,100,000	356,690,065	44,251,152	400,941,217	1,852,328,368

○過去5年間の下水道使用料収入状況
(現年度分)

区 分 年 度	調定額	収入額	還付未済額	収入未済額	収納率
平成30年度	262,934,135	258,898,178	4,266	4,040,223	98.5
令和元年度	265,393,337	261,539,493	2,860	3,853,844	98.5
令和2年度	247,306,697	244,147,810	8,244	3,158,887	98.7
令和3年度	275,727,996	271,961,337	17,413	3,766,659	98.6
令和4年度	249,581,529	241,409,696	41,887	8,171,833	96.7

○過去5年間の下水道使用料収入状況
(過年度分)

区 分 年 度	調定額	収入額	不納欠損	収入未済額	収納率
平成30年度	9,050,174	2,235,214	962,475	5,852,485	27.6
令和元年度	9,892,708	2,657,441	711,920	6,523,347	28.9
令和2年度	10,380,051	2,910,150	560,473	6,909,428	29.6
令和3年度	10,076,559	2,265,978	597,156	7,213,425	23.9
令和4年度	10,980,084	2,482,533	843,841	7,653,710	24.5

○過去5年間の受益者負担金収入状況

(単位：円・%)

区 分 年 度	現 年 度			過 年 度		
	調 定 額	収 入 額	収 納 率	調 定 額	収 入 額	収 納 率
平成30年度	10,690,860	10,690,860	100.0	0	0	-
令和元年度	11,627,270	11,622,070	100.0	0	0	-
令和2年度	8,265,760	8,255,960	99.9	5,200	5,200	100.0
令和3年度	9,529,090	9,468,190	99.4	9,800	9,800	100.0
令和4年度	48,226,190	47,615,560	98.7	60,900	10,400	17.1

○過去5年間の不納欠損額 (単位：円)

区 分 年 度	受益者負担金	下水道使用料
平成30年度	0	962,475
令和元年度	0	711,920
令和2年度	0	560,473
令和3年度	0	597,156
令和4年度	0	843,841

第4 　むすび

まず、今回の決算では、下水道の特別会計から公営企業会計への移行のため、通常年度では5月末までの出納整理期間となっているところ、3月末までの打ち切り決算となっている。そのため、歳入においては国庫支出金や町債において未収金が発生しているが、その分は令和5年度の収入となる。

次に、歳入において錯誤による還付金が発生することもあるが、その都度同様の案件が他にもあるかどうかを調べて確認することが肝要だと考える。また、工事や委託事業などの契約については概ね適正に行われている。今後も、随意契約などを行う際には他市町の同様の事業の価格などを参考に、適正に行われるように心がけてもらいたい。

現状、下水道事業の財源は一般会計からの繰入金に大きく依存している。特に借入金の返済には、一般会計に頼るところが大きいと思われ、町の財政を圧迫していることは否めないところである。また、説明の中でふれあい水センターの設備の中に耐用年数を超えている物があり、更新のためには長い年月と大きな費用がかかってくる、という内容があった。管路も含めた下水道インフラは、万が一使用が出来なくなると住民に多大な迷惑がかかるものであり、その対策は急務であると考え。今後設備の更新については、なるべく早く対策を講じる時期にきていると思われ、財政部局とも連携をとりながら町の全体の事業として計画し推進していく必要があると考える。

最後に、下水道事業の広域化や包括的民間委託など、現状の事業運営以外にも方法があると聞いているが、北方町に適応した運営方法を見つけるためにも、今後も 情報収集や研究を進めていってもらいたいと考える。